

情報通信審議会情報通信政策部会（第40回）議事録

1 日時 平成25年1月18日(金) 11時24分～11時49分

2 場所 総務省8階第1特別会議室

3 出席者

(1) 委員（敬称略）

浅沼 弘一、石戸 奈々子、伊東 晋、井野 勢津子、近藤 則子、佐藤 正敏、
鈴木 陽一、須藤 修、谷川 史郎、知野 恵子、徳田 英幸、新美 育文、
野間 省伸、藤沢 久美、三尾 美枝子（以上15名）

(2) 総務省

（情報通信国際戦略局）

桜井 俊（情報通信国際戦略局長）、久保田 誠之（官房総括審議官）、
渡辺 克也（情報通信政策課長）、田中 宏（技術政策課長）

(3) 事務局

松村 浩（情報通信国際戦略局情報通信政策課管理室長）

4 議題

(1) 部会長の選出及び部会長代理の指名について

(2) 「イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方」について

(3) 委員会の設置について

開 会

○松村管理室長　それでは、ただいまから情報通信審議会情報通信政策部会第40回を開催させていただきます。

事務局を担当しております松村です。本日は、部会委員の皆様の互選により部会長が選出されますまでの間、議事の進行を務めさせていただきます。

それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。本日は委員18名中15名がご出席されておりますので、定足数を満たしております。

部会長の選出及び部会長代理の指名について

○松村管理室長　まず、部会長の選出をお願いしたいと思います。情報通信審議会令第6条第3項の規定によりまして、部会長は委員の互選により選出することとなっておりますので、委員の皆様からご推薦をお願いしたいと思います。お願いいたします。

○伊東委員　構成委員の皆様はそれぞれご見識のある方ばかりでございますけれども、情報通信分野に関して幅広い知識をお持ちであるとともに、昨年も幾つもの重要な答申を取りまとめられました須藤委員が適任であると思いますので、引き続き部会長をお願いしたいと思いますと存じます。

(「異議なし」の声あり)

○松村管理室長　では、異議なしという声をいただきましたので、須藤委員に部会長をお願いしたいと思います。

これからの議事は、部会長をお願いいたします。部会長席のほうにお移りいただけたらと思います。

○須藤部会長　それでは、伊東委員から過分のお言葉をいただきましたけれども、極めて微力な人間ですが、何とぞご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

ただいま部会長に選出していただきましたので、一言ご挨拶申し上げます。総会でもありましたように、イノベーション戦略、それから研究開発をつなげなければなりません。国民にとってきちんと実があるものにICTの戦略を策定しなければなりません。基本的で、かつ総合的な政策の審議を担当するのが、この政策部会になります。ご見識

の高い委員の方々に参加いただいておりますので、審議における忌憚のないご意見、それから答申をまとめるに当たって何とぞご協力のほどお願いいたします。

若干余談を申し上げますけれども、昨日、フランスのノーベル賞学者、コレージュ・ド・フランスのアロシュ教授、この方は昨年12月にノーベル物理学賞を受賞されたのですけれども、私が所属する情報学環とコレージュ・ド・フランスは姉妹提携と言いますか、交流協定を持っていますので、お祝いの手紙を送ったところ、書籍と手紙をいただきまして、東大でコレージュ・ド・フランスの先生を派遣して一緒に講義をやらうじゃないかというご提案をいただきました。しかし、アロシュ教授の専門は量子物理学ですので、うちの担当ではないと思って、早速昨日、理学系研究科長の相原教授、この方は素粒子物理学のご専門ですけれども、相談したところ、相原先生も大喜びで、では情報学環と理学系研究科が組んでいろいろ企画しますかと提案したら、やりましょう、やりましょうということになりました。

おそらくイノベーションとは、今は何も見えないのですけれども、学問の新たな展開はそういうひょんなことから、しかしものすごい壁があるのですけれども、何かやれば何かが出てくる可能性はあると思うのです。

だから、もちろん物理学もスパコンを使って、CERN（欧州原子核研究機構）などがそうですけれども、データ分析を相当やっています。それだけではなくて、もう少し国民生活に関与するようなところでも化学、物理学、情報科学、それから情報政策などを結びつけば、何かが出てくるかもしれない。もちろん医学もですけれども。

それで、ちょっとブレインストーミングをやってみるかということで、昨日から舞い上がっているのですけれども、アロシュ先生に返信を書かなければいけませんので、どうまとめようか悩んでいます。そういうものもまた議論、ブレインストーミングというか、相互作用ですね。こういうところで皆さんの相互作用を使って、新たなイノベーション戦略などが構想できればと思います。

何とぞ、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

それでは、部会長代理を決めておきたいと思います。部会長代理は、情報通信審議会令第6条第5項の規定により、部会長が指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。

部会長代理には、引き続き前期と同様、新美先生にお願いしたいと思います。

新美先生、よろしいでしょうか。

○新美部会長代理 はい。

○須藤部会長 それでは、よろしく願いいたします。それでは、部会長代理の席にお
移りいただきたいと思います。

議 題

○須藤部会長 それでは、諮問事項に移ります。総会でも説明がございましたけれども、
もう1度、「イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方」について、
総務省よりご説明をお願いいたします。

○田中技術政策課長 総務省技術政策課長の田中でございます。よろしく願いいたし
ます。

本件につきましては、先ほどの総会で説明させていただきましたので、詳細について
は省略をさせていただきたいと思います。今後、情報通信政策部会においてご審議いた
だきますよう、よろしくお願い申し上げます。

委員会の設置について

○田中技術政策課長 また、事務局のご提案といたしまして、お手元に資料40-2-
3をお配りさせていただいておりますけれども、本部会の下に専門的・具体的な調査を
願いますべく、イノベーション創出委員会を新たに設置したいと考えております。委員
会の設置に関して、この資料にあるとおり、名称・構成等記載させていただいていると
ころでございます。よろしくご審議をお願いいたします。

○須藤部会長 どうも、ありがとうございました。

それでは、本件について既に総会でも鈴木先生をはじめとしてご意見いただきました。
近藤さんからもご意見をいただきましたけれども、本件についてご意見・ご質問をさら
にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○鈴木委員 もう一言よろしいでしょうか。

○須藤部会長 はい、どうぞ。

○鈴木委員 こういう研究の結果を産業にというときに、どうも最近、非常に四角四面
と言いますか、明確な目標を出して脇目も振らずにということがすごく多いような気が

いたします。

しかしながら、イノベーションということを考えると、これまでに全くない付加価値をつくる、社会生活を変えるということですので、先ほどのような流儀を北風とすると、そうではない太陽政策、それに近いような雰囲気も必要になるのではないのでしょうか。

先ほどの総会でも複数年度予算の話が出ておりましたけれども、それだけではなくて、新たな展開、サイドステップを踏めるようなこと、あるいは自由な発想力がある一定の方向の枠内で許されること、そういったようなことが重要なと感じます。

以上でございます。

○須藤部会長　ありがとうございます。極めて重要な指摘だと思います。

今、鈴木委員からおっしゃっていただいたような、何と言いますか、相互作用でかなり複雑系的なところからイノベーションが生まれるということがありますので、当初計画していたものからかなりずれるけれども、すごいイノベーションにつながったということは、これまでの事例からもたくさんありますので、そういう柔軟性も踏まえたイノベーション戦略というのは考えなければならないと思います。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。はい、石戸委員、お願いいたします。

○石戸委員　今回初めて参加させていただくことになりました石戸でございます。よろしくをお願いいたします。

1点質問させていただきたいのですが、内閣官房のIT本部や知財本部等でも、毎年IT戦略ですとか、知財計画などを出されているかと思うのですが、ここでの議論と、それらの戦略との関係性というのはどうなっていくのかということについて、教えていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

○須藤部会長　極めて妥当なご質問だと思います。総務省のほうから。

○田中技術政策課長　ご質問ありがとうございます。ここの説明資料にも総合科学技術会議についても書いてございますけれども、いろいろなものが重層的に関係してまいりますので、当然ながらここでの議論の結果をこういったような本部に、逆にこちらからもインプットさせていただいて、そこで新しい化学変化を起こさせられたらいいなと思っておりますので、ぜひそういった面も含めてご審議いただければありがたいというふうに思っております。

○石戸委員　ありがとうございます。

○須藤部会長　どうもありがとうございます。

○浅沼委員　よろしいでしょうか。

○須藤部会長　どうぞ。

○浅沼委員　電機連合の浅沼でございます。この審議会とこの諮問には直接関係ないのかもしれませんが、我々は人という面でいろいろ仕事をしている関係で言いますと、この中で人、人材という意味で言うと、人材の投資、それから人の活用という言及がされているかというふうに思うのですが、全体を支える人の育成と言いますか、人への投資という面についても、この議論の中に直接の結果には出てこないのかもしれませんが、特に最近調査をしてみますと、学生のICT分野への人気度というのは非常に下がってきていて、優秀な人材がなかなか集まらないというようなこともあるという現実を考えると、少しそういう意識もしていただいた上での答申になればというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○須藤部会長　ありがとうございます。これも極めて重要だと思います。それは大学で日々感じております。

　今のご意見に関連してでも結構ですけれども、はい、どうぞ。

○谷川委員　今回から初めて参加します谷川でございます。よろしく申し上げます。

　今のお話を聞いていて、ちょっと、一昨年私自身がアメリカのインキュベーターを随分回って、現場のマネジメントを見るに当たり、日本にはまだああいった機能が弱いなと感じています。特に出口戦略というのは、出口をしっかりと固定するというよりも、技術がぶつかり合う場をどうやって日本の国内でつくっておくのかというのは、すごく大事なことなのではないかと思っておりますので、そんな議論もこの中に入ってくると幅広になるのかなと思いました。

○須藤部会長　よろしく願いいたします。ありがとうございます。

　ほか、いかがでしょうか。

○近藤委員　はい。

○須藤部会長　近藤委員、お願いします。

○近藤委員　総務省におかれましては、超高齢社会ICT構想会議なども設置しておられているのですけれども、これから本当に高齢社会になってくると、福祉情報サービス分野というのは、日本はとても遅れているのです。なのに3,000万人の高齢者の方のうちの半数、1,500万人はおそらく難聴者であろうと。そうすると、電話やテレビを使うのに困難を持っていらっしゃる方がやはりたくさんいらっしゃるということ

踏まえて、どうしてもこの分野は厚生労働省とか、そういったところと連携をしないと、地域でやろうとするときに、なかなか連携がうまくいかないのです。

そういった調整をやはり国でやっていただかないと、大変難しいのですけれども、先日、その厚生労働省関係のある理事長の方のお話を聞いても、もう、学術的にはすばらしいのですけれども、あまりにも遠くて、「こんなものがあればいいのに」とその方がおっしゃるのは、既にあるにもかかわらず知られていない、普及されていない。あるのに知られていないというこの現実を見たときに、本当に現場同士の人たちが全く交流していないということなのかと感じました。先ほど須藤先生がおっしゃったように、イノベーションというのは、交流することによって生まれるものもたくさんあると思いますので、そういった場をぜひ国で用意していただけたらありがたいと切に願っております。

以上です。

○須藤部会長　ありがとうございます。重要な点だと思います。これも、全て重要なご発言をいただいていると思います。

ほか、お願いいたします。

○知野委員　よろしいですか。

○須藤部会長　はい、どうぞ。

○知野委員　今回から参加させていただきます読売新聞の知野と申します。よろしくお願いたします。

それで、イノベーションなのですけれども、出口戦略と言われていますが、小泉政権、それから第一次安倍政権のときからずっと重要だと言ってきたことです。いま第二次安倍政権も重要視していますし、それから民主党政権でも非常に重視しました。いろいろ研究開発はしているけれども、なかなかうまく実用に結びついていないという問題があります。

先ほどご指摘がありましたように、いろいろな分野がぶつかり合うということが重要だと思うのですが、そのためにも研究開発、一体何をやっているのかというところを仲間内で研究をやっているだけではなくて、もっと公開していく必要があるのではないかと考えています。

確かに、途中でホームページなどに出されたりしているのですが、とても難しく、わからなくて、つかみどころがないので、ぜひともここでプレゼンテーションの仕方、公開の仕方を含めてもう少し検討する必要があるのではないかと思います。

以上です。

○須藤部会長　ありがとうございます。それも極めて重要だと思います。

ちなみに、余談を申し上げて申しわけありませんが、資料40-2-2に山中先生のプレゼンテーションの資料が入っていますので、政府は再生医療にかなり力を入れるということで、臓器をつくるというようなことにかかなり可能性を感じて予算措置をされると思うのですが、実際のところ、山中先生もおっしゃっているように、本当のところは創薬なのですね。何かちょっとずれているのではないかと思いながら、昨日も化学担当で東大担当の新聞記者の方々と話して、ちょっとずれていますよねと言ったら、そうそうと皆さんおっしゃっていたのですが、そのあたりを情報共有して適切な資金配分などはしないとイケないのではないかと感じました。

もちろん再生医療は極めて重要ですので、やらなければいけないのですが、創薬という言葉があまり前面には出ないので、「あれ」と思いながらちょっと見た次第です。そういう意味では情報をうまく共有して、ほかの学問分野、産業分野などが連携できやすいような状態はつくるべきだろうなというふうに思います。

ほか、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○佐藤委員　私も今回初めて参加させていただき佐藤でございます。

今のお話を聞いてなのですが、先端技術や、サイエンスの新しいことを行うのがイノベーションだというふうに語られがちなのですが、実は社会の中の仕組みを少し変えていくというのもイノベーションだと思うのです。

例えば、今回、先ほどの冒頭お話があったように、災害対策とか、あるいは復興とか、そういうことを言ったときに、デジタルデバイドになっているような老人の人たちにいかに簡単にICTを使ってもらえるかというような、ちょっとしたやり方を変えることもイノベーションだと思うので、そういうこともぜひ意識して、この審議を進めていただければと思います。

○須藤部会長　ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。

ほかにも何か、徳田委員。

○徳田委員　手短に、すみません。

非常に私は大賛成でして、こういう議論が深くされることを期待しております。1点目は、少し出口戦略というキーワードが出ておりますけれども、これは総務省はじめ各省庁でいろいろなR&Dのコール・フォー・プロポーザル(CFP)をつくられるとき

の枠組み、先ほどこよつと出ましたけれども、研究者村の中だけでやっていくスタイルの基礎研究もあれば、やはりある種の産官学連携を意識したC F Pの書き方、やはり出口へよりスムーズに谷を渡れる、公募、研究を始める、R & Dを始めるときからうまく仕組みづくりというものを、やはりもう1回議論していただければいいかなと思っております。

それから2点目は、やはり我々研究者側の人たちがつくったテクノロジーが社会に浸透していく、社会実装していく上で、いろいろ社会的な仕組み・制度がおくれています、そこをテクノロジーイノベーションとソーシャルイノベーションの両方をマッチさせるという感覚で議論が進むと、非常によろしいのではないかと思っておりますので、期待しております。

○須藤部会長　ありがとうございます。よろしく願いいたします。

はい、じゃあ、どうぞ、お二人とも。

○三尾委員　出口戦略という観点から、この図を拝見いたしまして思いますには、やはり日本の研究者、基礎研究をやっている大学を中心とした研究者の周りに、サポート体制が非常に少ないというのを、アメリカと比べまして実感する次第です。

今、文部科学省のほうでスタート事業というのをやっております、その関連をしておりますので、そこでちょっと感想を述べさせていただきたいのですが、いいシーズがあっても、それをなかなか事業化につなげていけない、つなげていくためにはいろいろなステップがあるのですけれども、それをサポートする人材が周りにいないということが非常に大きな問題だというふうに思います。研究者だけではなくて、例えば公認会計士だったり、私のような弁護士だったり、リサーチャーだったり、全く業種が違ういろいろな分野の専門家がサポートをしていかないと、なかなかシーズとしては育っていかない、事業化につながっていかないと思うのです。そういう仕組みづくりが、今我が国には欠けているというふうに、非常に強く思います。

ですので、この政策を考える上で、そういうネットワークづくりとか、フォーラムづくりをしていただいて、簡単に研究者がアクセスできるような、そういう仕組みを実現できれば、出口戦略に非常に寄与するのではないかというふうに考えております。

以上です。

○須藤部会長　ありがとうございます。日本に足りないところですので、極めて重要だと思います。この辺の議論もしていただいて、答申に何とかまとめ上げられればと思います。

ます。ありがとうございます。お願いします。

○井野委員 井野と申します。よろしくお願いします。

イノベーションを推進していく際に非常に重要なことだとは思いますが、逆に言うとそのイノベーションによって、これまでのビジネスモデルですとか、サービスモデルは壊されるという、その負の側面もありまして、そこをどういった形でイノベーションを推進していく際に考えていくかというのが、非常にそのイノベーション自体を定着させるのに重要な課題だと思っています。

壊れてしまうとと言うと、言葉は悪いのですが、変革を余儀なくされるその構造、それで例えば社会的に取り残されてしまう弱者なども出てきかねないので、そのあたりの負の側面をきちんと考えに入れることが重要だと思っています。

○須藤部会長 ありがとうございます。それとつけ加えますのは、昨日、東京大学で総長とマスコミの懇談会があって、部局長も出席してくださいということで出席したのですが、でも、マスコミの方々と話していて、やはり皆さん、イノベーションでネットの、「まあ、危ないよね、僕ら」と皆さんおっしゃってまして、それが逆に障壁になってイノベーションを阻害するところもあるのです。だからうまく、どうやって既存の産業の方々がうまく別のビジネスモデルにシフトできるかというようなことも、イノベーションのブレークスルー型と、それから徐々に山が動くような、そういうものと、両方考えていかなければいけないだろうなと思います。

そうしないと、支持が得られない、広がらないということはあると思います。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

ほとんど全員の方にご発言いただいたと思います。今後ともよろしくお願いします。ただいまの発言は全てメモして、今後の検討に十分生かしたいというふうに思います。

それでは、事務局提案のとおり諮問第19号の調査・検討のため、資料40-2-3のとおりイノベーション創出委員会を設置することとしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○須藤部会長 ありがとうございます。では、そのように決定いたします。

なお、情報通信審議会議事規則別記1により、委員会の構成等は部会長が決めることになっております。本委員会の主査は、徳田委員にお願いしたいと思います。徳田委員、

大変だと思いますけれども、よろしく願いいたします。また、皆様にもご協力をお願いをすることもあろうと思いますので、そのときはよろしく願いいたします。

委員会の構成については、改めて私のほうから、後日、皆様にお知らせしようと思えます。私のほうで委員会のラインナップを決定させていただきたいというふうに思います。

閉 会

○須藤部会長　それでは、本日の議題を終了いたします。非常に有益なご意見をたくさんというか、全員ですね。ご発言なさった委員の方々のご意見は極めて重要なものばかりでございました。これからも何とぞよろしくお願い申し上げます。

事務局から最後に何かございますでしょうか。

○松村管理室長　特にございません。

○須藤部会長　それでは、次回の情報通信政策部会は別途確定になり次第、事務局からご連絡させていただきます。

以上で閉会とさせていただきます。どうも、本日はありがとうございました。